

紋枯病の発生に注意しましょう!!

7月の気象予報は、気温が高く降水量が多いとなっており、高温多湿を好む紋枯病菌にとって発生しやすい条件となります。

早生品種や草丈の短い品種、茎数が多く過繁茂の圃場、昨年多発生した圃場では、被害が大きくなります。圃場での発生を確認し、適期に薬剤防除を行いましょう。

1. 防除の必要な圃場

●穂ばらみ期の発病株率

(早生) 10%以上の圃場 (中生) 20%以上の圃場

- ・圃場により、発病に差がみられるので、圃場ごとに確認しましょう。
- ・畦畔沿いで発生が少なくても、圃場に入ると多いことがあります。圃場内も調査しましょう。
- ・紋枯病に登録のある育苗箱施用剤を処理していない圃場では、必ず調査を行い、適期防除に努めましょう。



●上記の基準に達していない場合でも、**倒伏が予想される圃場**では防除が必要です。

2. 防除時期

茎葉散布剤 (粉剤・液剤) …早生・中生品種では穂ばらみ期に防除

- ・降雨が続き、多発生が予想される場合には、穂揃期に2回目の散布を行う。
- ・晩生や直播栽培等出穂の遅い圃場でも、発病が多い圃場は7月下旬に防除する。
- ・薬剤が株元の病斑にかかるように散布する。
- ・育苗箱施用剤や粒剤で防除した圃場でも、発生が多い場合には、穂ばらみ期に追加防除を行う。

粒剤 …7月上旬が防除適期

- ・前年多発生した圃場では、粒剤施用で予防を行う。薬剤により施用時期が異なるので注意する。

3. 防除薬剤

薬剤名	10aあたり 使用量	使用濃度	安全使用基準	
			使用時期	使用回数
バリダシン粉剤DL	3~4kg		収穫14日前まで	5回以内
バリダシン液剤5		1,000倍	収穫14日前まで	5回以内
モンガリット1キロ粒剤	1~1.3kg	(散布)	収穫45日前まで	2回以内
	1kg	(無人ヘリ)		
イモチエース粒剤	3kg		収穫35日前まで	1回以内
リンバー粒剤	3~4kg		収穫30日前まで	2回以内
モンカット粒剤	3~4kg		出穂10~30日前、ただし収穫45日前まで	3回以内
サジェスト微粒剤F	3~4kg		収穫21日前まで	3回以内

・サジェスト微粒剤Fは、出穂4~5日後前後に散布する

☆最新の農薬登録情報(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p301.do>)を確認して下さい。